

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立北諏訪小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0024

東京都多摩市諏訪1-60-1

E-mail daihyo-kitasuwa-sho@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/eskitasuwa/?page_id=13

児童生徒数 男子 247 名 女子 232 名 合計 479 名

児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「2050 年のおとなづくり」を学校理念として、ESD を教育活動の重点と捉え、ESD の実践を通して、“地域を愛し、共に問題を解決しようとする力の育成” を目標とした。

具体的には、①環境に関わる学習、②国際理解・文化多様性に関わる学習、③地域の伝統文化に関わる学習を行った。

① 環境に関わる学習

5 年生では、校庭の一角にある、およそ 40 m² の田んぼを使って、毎年稲作を行っている。6 年生からもらったモミからどのように発芽させるのかについて、理科の発芽の学習と関連させながら考えた。また、稲作の方法について自分たちで調べ、「田おこし」「代かき」などを実際に体験した。地域の方の手ほどきを受けながら秋の収穫を迎えることができた。さらに、6 年生で学習する環境問題へもアプローチできるように工夫した。

② 国際理解・文化多様性に関わる学習

4年生の、「オリンピック・パラリンピック東京2020に向けて」の学習では、調べてみたいこと、知りたいことを見つけ、インターネットや本を使って調べる活動を行った。オリンピック・パラリンピック競技や、出場選手、日本の文化についてなど、児童それぞれが自分の課題を設定し、壁新聞にまとめたり、タブレット端末を活用したりして発表した。また、オリンピック・パラリンピック教育として、国士舘大学柔道部のみなさんに技を見せていただいたり、膝立ち柔道を体験したりした。

③ 地域の伝統文化に関わる学習

6年生では、地域の伝統文化として、「多摩太鼓」の演奏に取り組んだ。「腰を落とす」「手を高く上げる」「体全体を使う」など、慣れない動きに戸惑いながらも練習を重ね、全校児童や保護者の前で迫力ある演奏を披露した。地域の方々に、多摩太鼓の指導をいただき、地域との連携を図りながら、学習活動を進めた。地域に根付く伝統文化に触れ、正しく理解し、大切にしようとする態度を養うことができた。

① 環境に関わる学習（5年）



② 国際理解・文化多様性に関わる学習（4年）



③ 地域の伝統文化に関わる学習（6年）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ときめきを未来へつづる 東京オリンピックパラリンピック学習ノート
- ・オリンピックパラリンピック読本
- ・2020年、世界は東京で一つになる！
- ・かがやけ！みんなのエネルギー

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

持続可能な社会づくりに関わる課題に対して、多面的、総合的に探究していくために、他の教科や他学年の学習内容との間に「つながり」を図りながら、継続的、実践的な指導をするように努めている。具体的には、各学年でESDカレンダーを作成し、教科とのつながりや、他学年の学習内容とのつながりを踏まえて、指導計画を立てている。

4年生では、総合的な学習の時間の「見直そう私たちの生活」の学習で、ゴーヤカーテンやダンボールコンポストの活動に取り組んだ。学習の際には、社会の「ごみのしまつと再利用」や「くらしをささえる水」、理科の「季節と生き物」の学習と関連させて学習活動を行った。

5年生では、総合的な学習の時間の「稲博士になろう」の学習で、稲作を行った。社会の「米作りの盛んな庄内平野」や「これからの食料生産」、理科の「植物の発芽・成長」の学習と関連させて学習活動を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

・生活や、総合的な学習の時間を核として、教科単元につなげ、それを可視化したESDカレンダーを各学年で作成している。

・年度末には、系統や内容を見直し、修正することで、児童の継続した学びを実現するとともに、指導の工夫に努めている。

・校務分担の一つとして、ESD担当教員を定め、校長の学校経営方針に基づき、主幹教諭とともに情報発信と共有を行い、各学年と連携を図り、全校体制で取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対

<評価方法>

保護者による学校評価アンケートや、教員による内部評価を行い、年度末評価に生かした。

<成果と課題>

本校では、環境についての取組として、4年生では、ゴーヤカーテン、ダンボールコンポストによる腐葉土作り、5年生では、田んぼを耕しての稲作を行っている。こうした本校の取組が、地域の活動として、定着してきており、地域の方や、保護者の方からの理解・協力にもつながっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

<発信方法・内容>

学校便りや学級便りにて、地域の方や保護者の方々に、活動内容とその成果について伝えるだけでなく、HPを活用して、取組の様子を発信してきた。また、4年生では、環境について、グリーンカーテンや、ダンボールコンポスト、ごみ処理の方法など、学習したことを壁新聞にまとめ、地域の消費者フォーラムや、イベントに出展した。地域の方々に、学校での取組の内容や様子について伝えることができた。

<得られた効果>

保護者の方や地域の方に、学校での取組の様子を伝えることで、関心をもっていただき、教育活動への協力を得られた。（ゴーヤカーテン作りの協力、稲作活動の協力、ダンボールコンポスト活動での生ごみの提供など）

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

以下団体と、協働・交流・ネットワーク形成を図っている。

地域の方、給食調理所、一本杉公園（古民家）、北諏訪小生ゴミ生き生きリサイクルプロジェクト、多摩エネルギー協会、多摩市民環境会議、社会福祉会館、地域農業従事者、農協、ボランティア団体等、錦秋幼稚園、エコ活動に取り組む人々、保護者、企業、官公庁、多摩太鼓の会 など。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

市内の小学校との情報共有や、多摩市こどもみらい会議への参加により、他のユネスコスクールとの交流を行った。特に、多摩市こどもみらい会議では、他のユネスコスクールでは、どのようなESDの取組を行っているのかがわかった。また、その取組による成果と課題や、それをもとに今後どのようなテーマでESDの取組を行っていくかについて協議ができた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 例年、各学年の取組を継続して行っていることで、活動の定着を図ることができた。（特に、4年生のゴーヤカーテン、ダンボールコンポスト、5年生の稲作）
- ・ 地域ボランティアに協力をいただき、作物を育てたり、講義を依頼したり、地域の方々と連携を図ることができた。
- ・ 4年生では、ダンボールコンポストの活動に対して、保護者の方々のご理解とご協力を得ることができ、当番制で、家庭ごみ（生ごみ）を提供していただいた。ごみのたい肥化について継続して活動に取り組むことができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

<育てたい児童像>

○社会を構成する一員としての自覚をもち、人・社会・自然に関する考えを深め、どんな小さいことでもかまわないから実践していくとともに、責任ある行動をしていくことができる。

○自己の利益にとらわれ、今現在をただ批判し嘆くのではなく、自らの判断力と自律心でどうしたらもっとよい社会をつくっていけるのかを前向きに考え、仲間とともに話し合い、力を合わせてできることから一つずつ解決の方法を実践することができる。

○様々な価値観を認め合い、互いに「かかわり」「つながり」を意識し大切にしながら、社会を築くことができる。

<各学年の中心となる学習内容>

- 1年 自然、身の回りの人々への関心
- 2年 自然、地域、身の回りの人々への関心
- 3年 自然とのつながり
- 4年 自然や社会や人とのつながり
- 5年 自然や社会とのつながり
- 6年 「人與人」「人と自然」「人と地球」について考える